

イブニングセミナー（公開講義） 開催

昨年10月に発足した東大まちづくり大学院は2007年度の冬学期の講義を無事に終えようとしています。

2008年4月には夏学期が始まりますが、それまでの休暇期間を利用して、東大まちづくり大学院の活動をより多くの方々にご理解いただくために、『イブニングセミナー』（公開講義）を開催します。

イブニングセミナーでは、まちづくりに関連した最新ニュースの中から注目されているテーマについて、専門の講師を迎えてレクチャーを行い、参加者との討論によってテーマを掘り下げ、考察します。特に今回は、まちづくり大学院の開講及び寄付講座の開講を記念して、広く一般の方にも参加していただけるようにとの配慮から参加費は無料となっています。この機会に、ぜひご参加ください。



■丸の内開発 左:丸の内パークビル・三菱一号館計画
 右:新丸の内ビル (資料提供:三菱地所(株))

第1回 「丸の内開発の課題と展望」

講師:長島俊夫 氏 (三菱地所(株) 代表取締役専務執行役員)

日時:2008年3月6日(木) 18時30分-20時30分

場所:東京大学工学部14号館141号室(本郷キャンパス)

第2回 「発展するホテル産業—日本と世界のいま」

講師:ショーン・E・ウィリアムス 氏

(モルガン・スタンレーキャピタル(株) 取締役、(株)パノラマ・ホスピタリティ チーフインベストメント オフィサー)

日時:2008年3月18日(火) 18時30分-20時30分

場所:東京大学工学部1号館265号室(15号講義室)(本郷キャンパス) 言語:日本語

第3回 「まちづくりと司法—都市開発訴訟からみる快適な都市づくりへの課題と展望—」

講師:日置雅晴 氏 (神楽坂キーストン法律事務所 弁護士)

日時:2008年3月27日(木) 18時30分-20時30分

場所:東京大学工学部14号館141号室(本郷キャンパス)

参加のお申し込みは、事前登録制です。参加希望回(多くの方に参加していただくために、複数回参加希望の場合は、優先順位をつけてください)・氏名・所属・連絡先を明記して、電子メールでお申し込みください。当大学院からの返信で参加が可能であることをご確認の上、ご来場ください。(各回定員100名)

■参加受付・お問い合わせは、mps-seminar@urban.t.u-tokyo.ac.jp までお願いします。



■景観裁判で知られる国立の高層マンション



■イブニングセミナー会場

2008年度入学試験のお知らせ

東大まちづくり大学院の第2回入学試験(2008年10月入学)は、2008年6月28日(土)に行います。募集要項及び入学志望者案内は2008年4月初めから配布し、出願期間は2008年5月中下旬になる予定です。詳細が決まり次第、当大学院Webサイト(下記参照)でも公表します。

なお、昨年度の入学試験問題は、工学部プリントセンター(工学部13号館)で販売中です。購入方法などは当大学院Webサイト(下記参照)をご覧ください。

URL <http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps>

講師のご紹介

今回のイブニングセミナーは、生まれ変わりつつある丸の内・大手町地区の都市開発、にわかに熱を帯びる東京のホテル戦争、さらに市民がまちづくりに関わる究極の形態としての法廷論争を取り上げて、まちづくりの最前線の諸相に接します。それぞれの分野で最も活躍されている方々を講師としてお招きしました。どうぞご期待ください。

■長島俊夫 氏



1971年、慶應義塾大学卒業、三菱地所入社。土地の仕入れに携わった後、1978年から大阪支店にて関西圏のニュータウン開発に従事。1983年に本社に異動し、横浜みなとみらい21地区全体の企画構想段階よりプロジェクトに携わる。1987年に横浜事業所(当時)設立と共に異動し、1990年からは横浜事業所副所長として、1993年の横浜ランドマークタワー・クイーンズスクエア横浜計画に尽力する。1996年に本社に戻ってからは、丸の内ビルディング、新丸の内ビルディング他丸の内の再開発に従事。1997年都市開発事業部長兼都市計画事業室長、2001年取締役丸の内開発企画部長、2004年常務執行役員ビル事業本部副本部長兼ビル開発企画部長、2005年に代表取締役専務執行役員ビル事業本部長等を歴任し、2007年4月より代表取締役専務執行役員ビル開発企画部担当兼都市計画事業室担当。

社外に於いては大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会 幹事長、社団法人日本都市計画学会 理事、NPO 法人大丸有エリアマネジメント協会 副理事長を務める。

■ショーン・E・ウィリアムズ 氏



モルガン・スタンレー・キャピタル株式会社取締役、およびグローバル・ロッキング・インベストメントのヘッド。モルガン・スタンレー証券会社の投資銀行本部に2000年に入社し、多くの日本国内のファンド投資を手がけ、現在は米国外のホテル投資に従事。

コーネル大学でホテル学を専攻し(ホテル経営学部卒業)、その傍ら日本人やアジア人との交流を目的に日本食のレストランを手掛けるなど、バイタリティを発揮。1991年に国費留学生として来日し、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻で修士号を取得。引き続き日本に在住し、スキー場設計コンサルタント、メリルリンチ証券の日本法人ヴァイスプレジデントを経て現職。

不動産業界やホテル産業の会議において、しばしばスピーカーを務める。

Urban Land Institute Japanのメンバーであり Vice Chairman を勤める。また、早稲田大学ホスピタリティ研究所の客員研究員でもある。

■日置雅晴 氏



1956年三重県生まれ。東京大学法学部卒業。1982年第二東京弁護士会登録。日弁連公害対策・環境保全委員会委員。立教大学法科大学院講師。墨田区、練馬区、国分寺市、狛江市等のまちづくりや環境に関する審議会委員等を兼任。著書に「市民のためのまちづくりガイド」(共著 学芸出版社 2000年)「自治体都市計画の最前線」(編著 学芸出版社 2007年)など多数。地元の神楽坂では「粋なまちづくり倶楽部」でNPO活動を推進。

都市開発や都市環境を巡る紛争は、全国各地で日常的に起きている。「建築自由の原則」のもと、最小限規制を行う実体法制度、生活環境と乖離した緩い土地利用規制、広範な救済に否定的な行政訴訟制度の実態などを背景に問題は深刻化している。最近のまちづくりを巡る争訟である国立景観訴訟、小田急高架化事業認可取消訴訟では市民的公共性を尊重した判例が示されたが、結局、請求は棄却された。市民が訴訟で勝訴して状況を変えることは容易ではない。最近の都市開発等を巡る訴訟事例やまちづくりに関する司法制度改革の動向等を踏まえて快適な都市づくりに向けた争訟制度の今後と事業者、市民、行政に期待される役割などについて講演する。